

稲作情報

Vol.4 平成26年7月1日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先: 本吉農業改良普及センター

TEL: 0226-29-6044

ホームページ: <http://www.pref.miyagi.jp/my-nokai/>



草丈は長め。茎数は必要茎数を確保

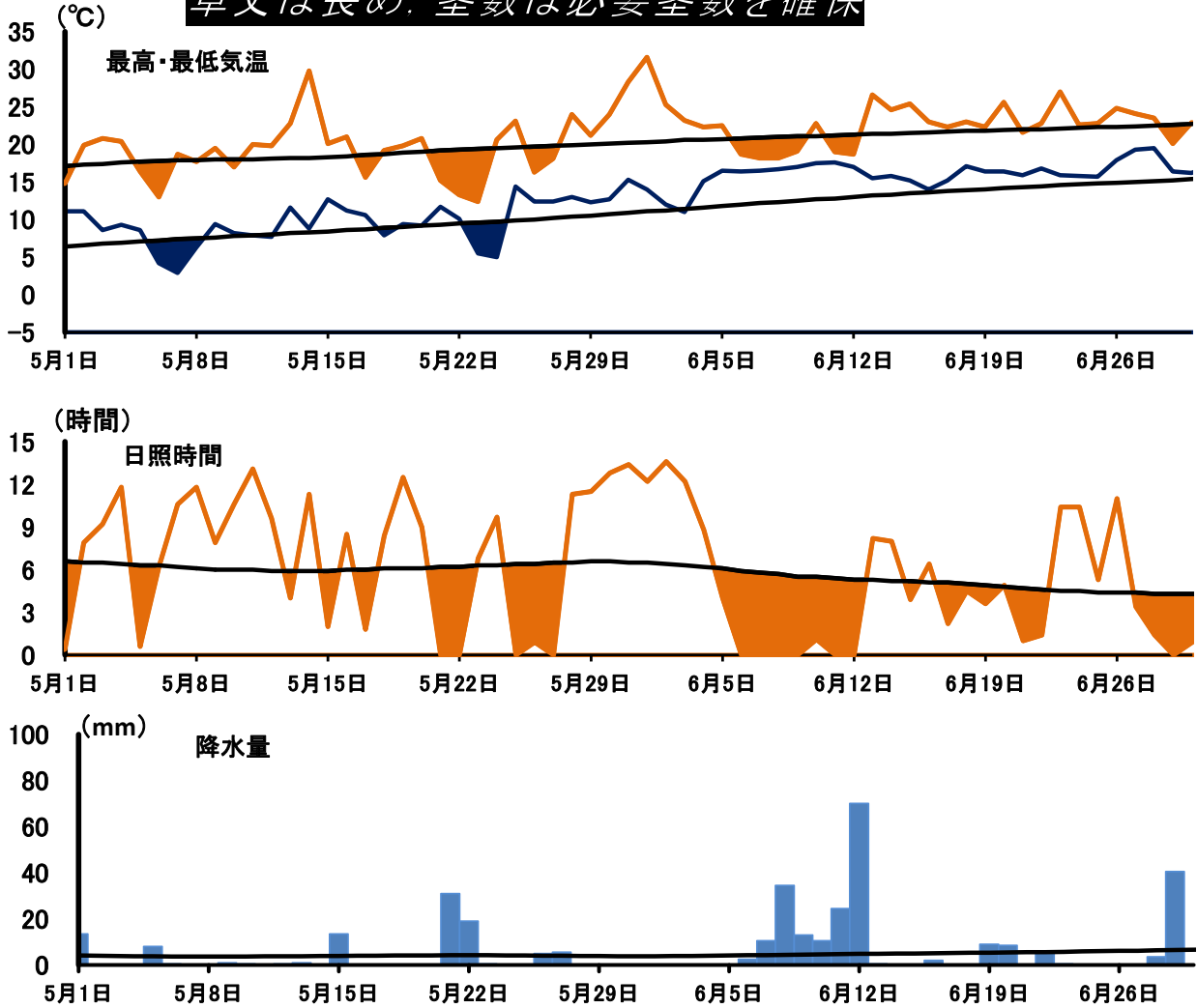


図1 気象経過図(気仙沼アメダス: 5/1~6/30)

気象経過

気温は6月いっぱい高温で推移。6月5半旬は多照, 6半旬は多雨

- ・気温は、6月いっぱい平年より高く推移しました。
- ・日照時間は、6月5半旬は平年を上回りました。
- ・東北地方南部は平年より7日早い6月5日に梅雨入りしており、6月6半旬の降水量は平年を上回りました。

表1 半旬別気象表(気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	差	H26	平年	比	H26	平年	比
6月1半旬	18.8	15.7	3.1	25.0	20.5	4.5	13.7	11.4	2.3	50.8	31.5	161%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	17.7	16.3	1.4	19.4	21.0	-1.6	16.8	12.3	4.5	1.1	28.4	4%	71.0	22.0	323%
6月3半旬	19.1	16.8	2.2	22.9	21.4	1.5	16.2	13.2	3.1	20.1	26.4	76%	95.0	24.4	389%
6月4半旬	18.6	17.4	1.2	23.2	21.8	1.5	15.8	13.9	1.9	21.6	24.9	87%	19.5	26.3	74%
6月5半旬	19.0	17.9	1.1	23.4	22.1	1.2	16.0	14.6	1.5	28.5	22.7	126%	5.5	28.7	19%
6月6半旬	20.2	18.4	1.8	23.1	22.5	0.6	17.9	15.1	2.7	16.7	21.7	77%	44.0	31.8	138%

- ・6月下旬の天候が高温であったことから、生育は前回よりもかなり進み、茎数は必要茎数を確保しました。
- ・気仙沼市の生育調査ほ(ひとめぼれ)では、平年と比較して、草丈は平年並(平年比 101%)、茎数は多い(平年比 113%)、葉数は平年並(平年差 0.1 枚)、葉色は平年並(平年比 99%)となっています。
- ・南三陸町の生育調査ほ(ササニシキ)では、平年と比較して、草丈は長い(平年比 110%)、茎数は平年並(平年比 102%)、葉数はやや少ない(平年差-0.4 枚)、葉色はやや濃い(平年比 105%)となっています。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月20日調査				7月1日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 SPAD値
生育調査ほ	平成26年	32.8	513	7.5	41.1	44.8	717	9.3	40.8
	前年	34.8	517	7.8	44.6	47.7	602	9.1	39.6
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月13日)	平年	31.3	493	7.7	41.9	44.3	633	9.2	41.1
	前年比(差)	94%	99%	-0.3	92	94%	119%	0.2	103
	平年比(差)	105%	104%	-0.2	98	101%	113%	0.1	99
生育調査ほ	平成26年	34.4	370	7.5	42.5	46.6	574	9.1	40.9
	前年	37.3	523	7.8	42.3	48.7	624	9.1	38.6
南三陸町入谷 ササニシキ (5月16日)	平年	31.6	410	7.8	39.7	42.3	563	9.5	39.1
	前年比(差)	92%	71%	-0.3	100	96%	92%	0.0	106
	平年比(差)	109%	90%	-0.3	107	110%	102%	-0.4	105

注: 平年値は過去5カ年(平21~25年)の平均値

今後の技術対策

必要茎数を確保したら中干しの実施を

◎水管理

- 必要茎数が確保されたら(450 本/m², 株あたり 20~25 本が目安), 早めに中干しを開始して, 過剰分げつの発生を抑制しましょう。
- 中干しは7~10 日間を目安に, 土の表面に亀裂が軽く入り足跡が付く程度まで行ってください。水はけの悪い水田では, 溝切りを行うと中干しの効果が高まります。
- 中干し終了後, 急に湛水状態にすると, 有機物の分解が促進されるなど還元状態が進み, 酸素不足となり根を痛めやすくなります。そのため, 中干し終了直後は走り水程度とし, その後間断かん水としてください。

◎雑草防除

- オモダカ, シズイ, コウキヤガラなどの多年生雑草やホタルイが多発しているほ場が散見されます。これらの雑草が多発したほ場では, 斑点米カメムシ類の発生が助長されるほかに, 穂数減少などにより減収となることがありますので, 後期除草剤等で防除してください。
- 後期除草剤の使用時期は, 幼穂形成期前(7月上旬)までです。散布時期が遅れると水稲に生育障害が生じやすいので, 遅れないように処理してください。また, 使用時に低温が続く場合は散布を控えてください。
- 使用量や使用方法は, 薬剤や対象草種ごとに違ってしますので, ラベルを読んで確認した上で使用してください。

◎病虫害防除

《葉いもち》

- 病虫害防除所の発生予察情報(6月 23 日発表)によると, 葉いもちの発生開始時期は平年並(7月 1 半旬), 発生量はやや多いと予察されています。
- いもち病は, 平均気温 19~25℃で多湿のとき感染しやすくなります。病虫害防除所の「葉いもちの感染好適日の推定(BLASTAM)」によると, 7月1日現在で葉いもちの感染に好適な気象条件は発生していませんが, 水田の見回りを行い, 早期発見に努めてください。
- いもち病の発生が認められた場合は, すでに周辺の株に感染している可能性があるため,

周辺のは場も含めて直ちに治療効果のある茎葉散布剤で防除してください。

注 意！

- * 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- * 薬剤のラベルをよく読み、使用基準を守って散布してください。
- * 散布時は、周辺環境等への薬剤の飛散に気をつけてください。また、薬剤は飛散が少ないDL粉剤を選定するなどしてください。

《斑点米カメムシ類》

- カメムシ類はイネ科やカヤツリグサ科雑草の穂で増殖します。畦畔や雑草地は、雑草の出穂前に刈り取るよう努めてください。草刈りは、地域で一斉に行うと効果が上がります。
- 草刈りは、出穂10日前(7月下旬)までに終わらせましょう。それ以降の草刈りは、カメムシ類を水田内に追いやることになります。
- 水田内のイヌホタルイやシズイ(カヤツリグサ科)、ヒエ(イネ科)等の残草は、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長します。後期除草剤などにより確実に除草してください。

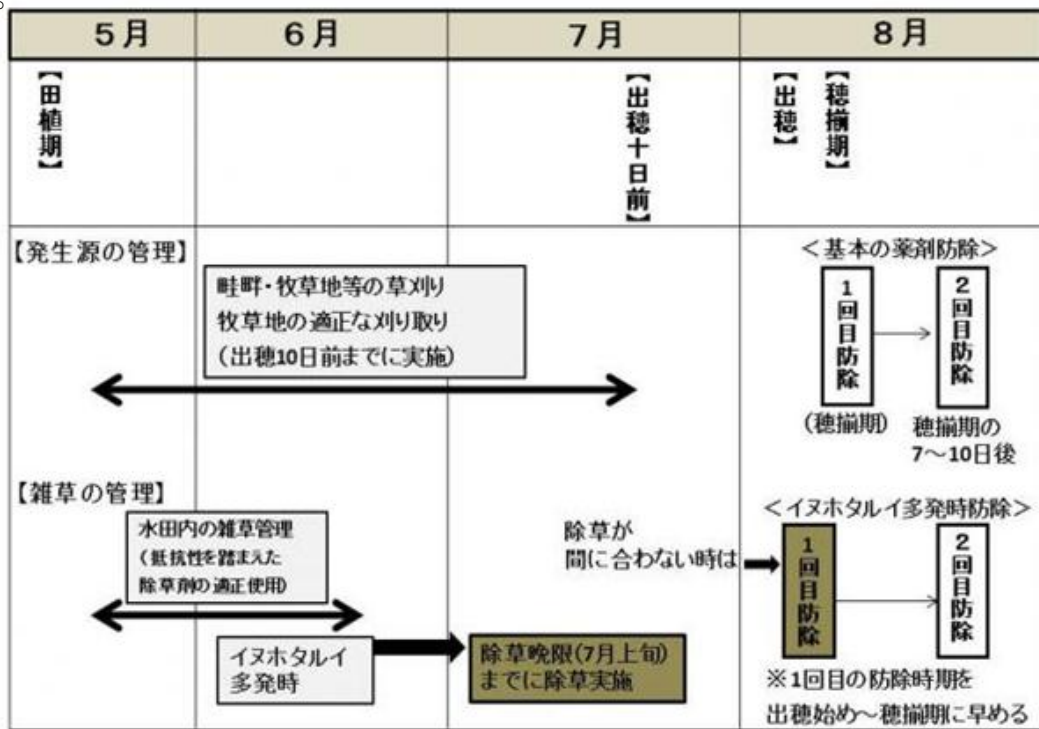


図2 斑点米カメムシ類の防除体系

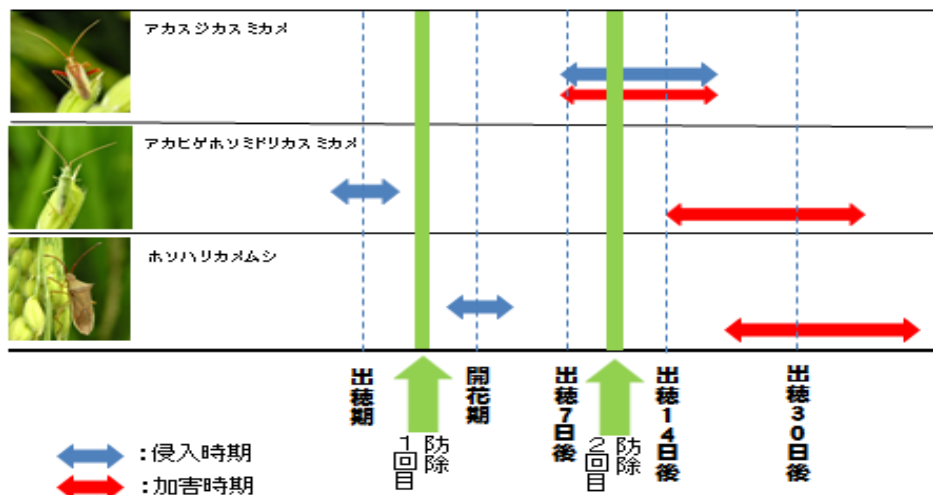


図3 斑点米カメムシ類の生態と防除時期